

1. 新運営委員就任のご報告

2026年7月16日、消化器外科女性医師の活躍を応援する会（AEGIS-Women）総会にて新運営委員を承認いたしました。8月1日より新たな任期がスタートしました。新体制のメンバーは下記の通りです。

河野 恵美子	大阪医科薬科大学	会長・総務（庶務）
大越 香江	日本バプテスト病院	副会長・総務（会計）・規約・広報・研究
小林 美奈子	三重大学	学術教育・規約
和田 則仁	神戸大学大学院	相談窓口
長谷川 芙美	とりで医療センター	学術教育・相談窓口・総務（会計）
松永 理絵	東邦大学医療センター佐倉病院	広報（ニュースレター）
林 沙貴	金沢大学	広報（SNS）
竹原 裕子	岡山済生会総合病院	学術教育
山岡 善子	北里大学	学術教育（セミナー）
窪田 寿子	岡山中央病院	学術教育（教材）
大木 亜津子	杏林大学	広報（SNS）
高村 卓志	Sunrise Japan Hospital Phnom Penh / 横浜市立大学	学術教育（セミナー）・研究
谷河 篤	東北大学病院高度救命救急センター	広報（HP）
上野 綸	獨協医科大学病院	広報（HP）
向山 順子	東京大学医科学研究所附属病院	研究・総務（会計）
野村 幸世	星薬科大学	会計監事

以下五十音順

上原 圭	日本医科大学付属病院
海野 倫明	東北大学大学院
掛地 吉弘	神戸大学大学院
調 憲	群馬大学大学院
高須 千絵	徳島大学

永野 浩昭	山口大学大学院
比企 直樹	北里大学
松原 久裕	千葉大学
宗景 匡哉	高知大学

顧問

遠藤 格	横浜市立大学
島田 光生	徳島大学
矢永 勝彦	倉重病院

2. AEGIS-Women 第10回総会および10周年記念祝賀会のご報告（第81回日本消化器外科学会）

2026年7月16日、第81回日本消化器外科学会総会会期中に AEGIS-Women10周年記念祝賀会および第10回総会を開催いたしました。



正会員の出席者30名、委任状61通につき、会則第四章第十二条（1）の総会成立に関する項目を満たしており、総会開会の宣言が行われました。2025年度の会計報告・事業報告および2026年度の予算・事業予定について承認されました。また前述しました通り、新運営委員に関する運営会議の決定を報告し承認されました。

続いて、10周年記念祝賀会が開催されました。調憲先生の祝杯のご挨拶を皮切りに、上野千鶴子先生、熊野恵造様（日本メドトロニック株式会社）をはじめ、さまざまな方々からお言葉をいただきました。当日は、総勢44名の方にご出席いただき、記念動画の上映なども行われ、AEGIS-Women の10年間の歩みを振り返るとともに、これからの当会の目指す姿について思いを共有する貴重な機会となりました。



（調憲先生）



（上野千鶴子先生）



3. 会長のご挨拶



AEGIS-Women 10周年を迎えて

ー感謝を胸に、次の10年へー

AEGIS-Women 会長

大阪医科薬科大学 一般・消化器外科 河野 恵美子先生

2026年7月16日、AEGIS-Women は10周年記念祝賀会を開催いたしました。ご多忙の中ご臨席くださった皆さま、またご都合によりご出席が叶わなかったものの、温かいご支援やお祝いのお言葉をお寄せくださった皆さまに、心より御礼申し上げます。AEGIS-Women が設立10周年という節目を迎えることができましたのは、多くの皆さまのご理解、ご支援、ご協力の賜物です。会を代表して、深く感謝申し上げます。

思い返しますと、AEGIS-Women 設立当初、女性外科医は非常に厳しい環境の中で働いていました。高い志と意欲を持つ医師であっても、ライフイベントやさまざまな困難が重なることで、消化器外科医としてのキャリアを断念せざるを得ないケースは少なくありませんでした。そのような状況を何とか改善したいという強い思いから、野村幸世先生、大越香江先生とともに、AEGIS-Women を立ち上げました。

会の愛称である「AEGIS」は、ギリシャ神話に登場する知恵と戦略の女神アテナが身に付けていたとされる神聖な防具の名に由来します。あらゆる災いや邪悪を跳ね返す力を持つとされ、古くから守りの象徴として語り継がれてきました。私たちはその名の通り、時には仲間を守る盾となり、また時には一人ひとりが自らの力で前へ進んでいけるよう支えながら、誰もがそれぞれの能力を十分に発揮できる環境を築くことを目指して活動を続けてまいりました。

この10年の間に、日本消化器外科学会では男女共同参画委



(野村幸世先生)



(大越香江先生)

員会の発足、女性理事の誕生、函館宣言の策定、評議員におけるクォータ制の導入など、さまざまな変化がありました。また、女性外科医の活躍の場も少しずつ広がり、消化器外科医を取り巻く環境は着実に前進してきたと感じます。AEGIS-Women も、こうした変化を後押しする重要な役割を果たしてきたのではないかと思います。

仕事や家庭に対する価値観が大きく変化する今、AEGIS-Women が果たす役割は今後ますます大きくなると考えています。これからの10年は、次の世代へバトンをつなぎ、多様な価値観を尊重しながら、すべての外科医がそれぞれの能力を十分に発揮できる環境作りに取り組んでまいります。これからも AEGIS-Women への温かいご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、10周年記念事業の開催にあたり、多大なご尽力をいただきました山岡善子先生をはじめ、運営を支えて下さった下記の皆さまに心より感謝を申し上げます。

- 総会チーム：永吉絹子先生、大原みずほ先生、山崎史織先生、阿部郁先生
- 動画チーム：谷河篤先生、上野綸先生、松尾智子様、山本玲子様
- 記念品チーム：亀田千津先生、田代真優先生、中山祥末先生

4. 新運営委員の先生のご挨拶

AEGIS-Women 運営委員就任のご挨拶と次の10年に向けて
東北大学病院高度救命センター 谷河 篤 先生

このたび、AEGIS-Women の運営委員を務めさせていただくことになりました。大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。また AEGIS-Women が設立10周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。これまで会の発展に尽力されてきた先生方に、深い敬意と感謝を申し上げます。

私は救急・外傷外科医として、重症患者の救命や緊急手術に携わってきました。救急・外傷外科の領域においても女性医師はまだ少なく、女性外科医が能力を十分に発揮してキャリアを継続できる環境を整えることが重要であると、強く感じています。



世界経済フォーラムが好評した「グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート2025」において、日本は148か国中118位にとどまっています。性別によってキャリアの選択肢や活躍の機会が左右されることのない社会を実現するためには、なお多くの課題が残されています。女性外科医の活躍を支えることは、決して女性だけのための取り組みではありません。多様な経験や視点を持つ外科医が、それぞれの力を十分に発揮できる環境が、外科医療の質の向上、次世代の育成、そして外科領域全体の発展につながると考えます。

設立から10年間にわたり積み重ねられてきた AEGIS-Women の活動と理念を大切に受け継ぎながら、次の10年では、女性外科医のキャリア継続を支援するだけでなく、性別やライフステージにかかわらず、すべての外科医がそれぞれの能力を十分に発揮できる環境作りへと活動の輪をさらに広げていくことが重要だと考えます。若い世代が外科に魅力を感じ、「外科医を続けたい」と思える未来を作ることが、外科領域全体の発展にもつながると確信しています。運営委員として、これまで救急・外傷診療に携わってきた経験や視点を生かし、AEGIS-Women の次の10年に微力ながら精一杯貢献してまいります。



AEGIS-Women 運営委員就任のご挨拶

東京大学医科学研究所 外科・フロンティア外科学

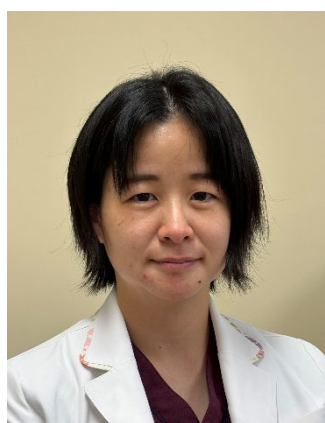
向山 順子 先生

このたび、AEGIS-Women 運営委員を拝命いたしました。大変光栄に存じますとともに、このような機会を頂戴し、心より感謝申し上げます。

私は神戸大学で学位を取得後に、米国に研究留学をして、在米中の結婚・出産を経て生活の拠点を東京に移し、2024年より現職に就いております。これまで、留学や海外出産、医局異動など多くのライフイベントを経験しながら、臨床・研究、家庭の両立を続けてきました。当然、すべてがうまくいく「三方良し」となることばかりではなく、落ち込むことも多い日々でした。その中で、AEGIS-Women のような医局横断ネットワークを通じて、所属や世代を越えたつながりを持つことができ、何度も救われてきました。

AEGIS-Women の運営では、会計とニュースレター、研究推進プロジェクトを担当させていただいています。研究推進プロジェクトは、ライフイベントと研究活動を両立できる環境の整備を目的として今年度新たに設立されました。現在、チームでシステマティックレビューの執筆を進めています。作業工程を分割することで、一人ひとりの負担を軽減しながら研究を進められる体制の構築を心掛けています。また、将来的には、会員の皆様の継続的な研究活動を支える「研究プラットフォーム」となることを目指しています。

互いの力を持ち寄り支え合う文化は、消化器外科全体にとっても重要だと考えています。私は、外科医はもっと互いに褒め合い、励まし合いながら歩むべきではないかと感じてきました。これまでの外科の世界に少なからず存在した、同調圧力や管理によって統制する「北風型」の指導文化が、外科医減少の一因となってきたことは否定できません。これからは、信頼で人を育てる「太陽型」の支援的指導が、外科医の持続的な成長と消化器外科のサステナビリティにつながると感じています。変革のためには、時には思い切った行動が必要であることも事実です。しかし、AEGIS-Women も槍と盾を両手に携えていても、「太陽型」の姿勢を大切に周囲と調和をとりながら前に進むことで、より良い変化を生み出していけるのではないのでしょうか。私自身も、次世代の挑戦を応援できる外科医になることを、これからの外科医人生の目標の一つとしています。今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



AEGIS-Women 運営委員就任のご挨拶

獨協医科大学病院 下部消化管外科 上野 綸 先生

2026年8月から AEGIS-Women の運営委員を拝命いたしました上野 綸（うえの みち）と申します。私事で大変恐縮ですが、私は学生時代から外科医になると決めており、同時に子どもも欲しいと考えていた、いわば欲張りな人間でした。そのため、外科医1年目で第一子を出産しました。当時は、子育てと両立しながらでも外科医としても十分に働いていけると考えていました。しかし、現実には想像以上に厳しく、日々の業務は激務で、学ぶべきことも膨大でした。正直に申し上げますと「出産のタイミング

を間違えた」と思い悩んでいました。それでも、どれほど大変な状況であっても「やはり外科が好きだ」という気持ちが変わることはありませんでした。何より、共に切磋琢磨し、叱咤激励し合える仲間、両立の難しさを理解し支えとなってくれる上司、そして家族の協力という恵まれた環境があったからこそ、今日まで外科医を続けてくることができました。

現在は中堅外科医として臨床・研究に携わっています。今後は自身の研鑽を積みながら、後輩たちが安心してキャリアを継続していけるよう、寄り添い、導き、共感できる存在でありたいと考えています。最近、勤務先である大学病院の女性研修医や医学生だけでなく、男性研修医や医学生からも「外科医としてのキャリア形成」について相談を受ける機会が増えています。その際には、私自身が歩んできた外科医としての経験や悩みを率直にお話しするようにしています。すると、親近感を持ってくれ、胸の内を明かしてくれることもあります。そうした若い世代との関わりを通じて、これまで悩みながらも歩んできた自分の道も間違っていなかったのだと実感しています。多様な働き方やキャリア形成が求められるこれからの時代において、本会のさらなる発展と会員の皆様のより良い環境作りに、微力ながら貢献できるよう、誠心誠意努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

編集：松永理絵、大越香江